

令和 8 年度（2026 年度） 第 1 回函館市観光アドバイザー会議 議事録	
開催日時	令和 8 年（2026 年） 7 月 24 日（金） 16:00～17:30
開催場所	函館市役所本庁舎 8 階 第 2 会議室
出席委員	奥平委員長，奥野委員，中村委員，飯野委員，金道委員，廣川委員
欠席委員	古地委員，纓坂委員，渡部委員
事務局ほか	観光部長，観光部次長，観光総務課長，イベント・FC 担当課長， 観光推進課長，コンテンツ開発担当課長， 観光総務課観光戦略担当主査，観光戦略担当主事
議題	（１） 令和 7 年度 来函観光入込客数推計について （２） 観光基本計画の目標値の進捗について （３） その他

■ 議事概要

（１） 令和 7 年度 来函観光入込客数推計について

事務局より，資料 1 に沿って令和 7 年度来函観光入込客数推計について報告。その後，委員による意見交換を実施。委員の主な意見と質疑応答は以下のとおり。

- H28（2016）年度の北海道新幹線開業時におけるクルーズ船の寄港状況はどの程度だったのか。
→（事務局）H28（2016）年度は 26 件の寄港であり，現在の 70 件を超える寄港数と比べると，半分以下であった。
- 昨年度は中国人観光客が少なくなった一方，台湾や韓国，さらに欧米系の観光客が伸びているが，特に欧米系はどのようなルートで函館に入ってきているのか。
→（事務局）今年度から導入する人流データにより，今後，国別・ルート別の動向を一定程度把握できるものと考えている。現時点では，本市と東北観光推進機構，ＪＲ東日本，ＪＲ北海道が連携して実施している「イースト・ジャパン・キャンペーン」が 3 年目となっており，成田・羽田から新幹線または国内線の乗継により来函している方が多いものと推測している。また，昨年度は国際線でモニター広告を 1 か月間放映しており，こうした各種施策の効果も出ているものと考えている。今年度は，新千歳空港にエア・カナダやユナイテッド航空などの北米路線が就航するため，今後は新千歳空港からの誘客についても注視していきたい。
- 欧米系をはじめ，多様な文化的背景を持つ観光客がいる中で，どのように函館の魅力を届けて

いくつかを検討する必要があるのではないか。函館の魅力は、欧米系のニーズに合うと思う。

→（事務局）欧米向けの売り込みは難しい面もあるが、特にイギリスからの伸びが大きくなっている。現在はSNS等を活用してプロモーションを行っているが、ターゲットを絞った重点的な誘客については、今後の検討課題である。

- 東京に入った外国人観光客が、滞在中に次の旅行先を決めるというデータもあるため、国際モニター広告は観光客へのアプローチは有効であると感じる。
- 宿泊施設は増えているが、人手不足によりサービスが追いつかない状況になりつつあり、次の段階に来ているように感じる。
- 国別の「その他」が約5割増えているが、特定の国に偏った傾向はあるのか。
→（事務局）特定の国というより、中国市場が伸び悩む中で、他の国・地域が全体的に増加している状況である。
- 令和7年度については、3月の卒業旅行等において、円安により海外旅行を控えた学生が国内旅行に回った影響もあるのではないか。
→（事務局）そのような傾向はあるものと捉えている。卒業旅行に限らず、円安等を背景に、旅行先が海外から国内へシフトしている面はあると思われる。
- 観光客数の増加は喜ばしいが、観光消費額の面ではどうか。円安や物価高により国内客がお金を使いにくい状況もあると思うが、統計はあるのか。
→（事務局）観光消費額については、2年に一度、観光動向調査を実施しており、7月から新たな調査を開始している。円安や物価高の影響を含め、今回の調査で把握していきたい。
- 宿泊数が増えたことで、観光客の市内での行動に変化が起きているかを人流データで分析できるとよい。
- 乗用車等の利用が若干減少している点が気になるが、ガソリン価格の高騰や高速道路割引制度の変化などが影響している可能性がある。
- 観光入込客数だけではターゲットを絞ることが困難であり、マーケティングを行うには、年齢や性別のデータも必要である。
→（事務局）年齢や性別等については、今年度から導入する人流データや観光動向調査により把握する。また、免税手続きサービスを行う「日本免税」と連携協定を締結しており、今後データ提供を受け、誘客施策の検討に活用していく。

（2）観光基本計画の目標値の進捗について

事務局より、資料2に沿って、観光基本計画の目標値の進捗として、平均宿泊数および平準化指数について報告。その後、委員による意見交換を実施。委員の主な意見と質疑応答は以下のとおり。

- 平均宿泊数・平準化指数について、12月から3月にインバウンドが非常に増えている。インバウンドを増やせば結果的に平準化が進むと思われるが、今後はインバウンド重視で進めるのか、国内客も増やしていくのか。
→（事務局）インバウンドについては、中華圏の春節時期を含め、冬の北海道は人気が高く、引き続き誘客を図っていく必要がある。一方、国内客についても、インバウンドだけに偏るの

ではなく誘客を進める必要があり、来年度以降、冬場の大型M I C Eや教育旅行の誘致に係る施策なども内部で検討している。

- 教育旅行については、大間、青森、弘前など、青森県内からの来函が増えている。また、東京近郊の学校では、熱中症リスクやバスの手配が困難になっていることなどを背景に、京都・奈良方面から北海道や北陸方面へ行き先を変更する動きもあるため、今後も宿泊事業者として誘致に力を入れていきたい。

→（事務局）北海道新幹線の開業により、北関東や南東北地域の学校が函館へのアクセスがしやすくなり、これらの地域への教育旅行誘致に力を入れてきたところであるが、教育旅行は実施の2年ほど前に方面が決まるため、その成果がようやく表れ始めているものと考えている。

- 平均宿泊数や平準化指数は目標値を達成しているが、観光基本計画の理念にある「観光の価値を高める」「質を上げる」という部分は、現在の指標だけでは捉えきれていないのではないかと。宿泊単価や観光消費額を測る指標も必要ではないか。

→（事務局）観光消費額については、観光動向調査において把握し、経年比較を行っている。直近の調査では、本市における観光消費額は約4万円となっている。今後、観光消費額の向上につながる取組については、宿泊税充当事業への反映も検討したいと考えているため、宿泊事業者の皆様から提案や意見があれば相談いただきたい。

- 基本計画策定時にも、利益や単価の話は議論になった。行政の指標としては平均宿泊数に落とし込んだ経緯がある。
- 函館はホテルが安いという声もある。
- 函館にはグローバルブランドのホテルがなく、富裕層が泊まる場所が少ないことが、価格の下押し圧力になっているのではないかと。広島市はグローバルブランドのホテルが進出して全体の単価が上がった。
- 函館は、「魅力度ランキング1位」である一方、宿泊単価は全国的に低いという実態を公表して見るのもよいのではないかと。
- 函館は連絡船時代の名残もあり、格安で宿を提供する文化が根強いのかかもしれない。
- 9月4日から6日まで、函館で商工会議所青年部の全道大会を開催する予定であり、約1,000人規模で集まる。